



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月7日

上場取引所 東 名

上場会社名 三菱UFJリース株式会社

コード番号 8593 URL <https://www.lf.mufg.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳井 隆博

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 福山 徹 (TEL) 03-6865-3004

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	221,355	△9.1	21,075	△16.6	21,415	△16.4	13,707	△20.1
2020年3月期第1四半期	243,641	16.0	25,270	31.1	25,627	23.1	17,154	5.5

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 4,875百万円 (△31.1%) 2020年3月期第1四半期 7,079百万円 (△18.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	15.38	15.33
2020年3月期第1四半期	19.26	19.20

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	6,505,896	788,715	11.9
2020年3月期	6,285,966	798,820	12.4

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 771,503百万円 2020年3月期 777,713百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2021年3月期	—	—	—	—	—

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）及び配当予想

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、これまでのところ5月に公表した参考情報で想定した程には生じておりません。しかし、今後の見通しについては、6月にIMFが世界経済の成長率を下方修正する等、高い不確実性が引き続き存在しております。当社としても、新型コロナウイルス感染影響の主要国のピークアウトは夏以降と見ており、感染再拡大の不透明感が続く状況から、合理的な事業環境を見通すことは未だ難しく、現時点では2021年3月期の連結業績予想及び配当予想とも引き続き未定としております。なお、現時点では、第2四半期の状況を見て連結業績予想、配当予想を開示する予定です。

詳細についてはP.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	895,834,160株	2020年3月期	895,834,160株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	4,750,916株	2020年3月期	4,761,716株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	891,077,844株	2020年3月期1Q	890,538,419株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報)	9
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(経営成績)

2021年3月期第1四半期連結累計期間の経営成績は、次のとおりとなりました。

- 新型コロナウイルス感染拡大の状況下ではありましたが、当第1四半期連結累計期間の売上総利益は、前年同期並みの水準となりました。不動産関連売却益の増加等による増益効果があった一方で、神鋼リースを連結除外した影響や前年同期に計上した航空関連の一時的収益の反動減による減益効果がありました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、中長期戦略に則った経営基盤強化に係る費用や貸倒関連費用等が増加した結果、前年同期比20.1%減少の137億円となりました。

(単位：百万円)

	2020年3月期 第1四半期連結累計期間	2021年3月期 第1四半期連結累計期間	増減率 (%)
売上高	243,641	221,355	△9.1
売上総利益	46,516	46,027	△1.1
営業利益	25,270	21,075	△16.6
経常利益	25,627	21,415	△16.4
親会社株主に帰属 する四半期純利益	17,154	13,707	△20.1

(報告セグメントの変更とセグメント別の経営成績について)

当社グループは、前中期経営計画から開始した事業部門制を踏まえ、カスタマービジネス及び事業部門ごとに、経営計画を策定し、PDCAサイクルを回す取り組みを開始しており、この単位での財務情報を活用して戦略の進化に繋げる仕組みを整えましたので、報告セグメント等の変更を行いました。

これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを「カスタマーファイナンス事業」及び「アセットファイナンス事業」の2セグメントから「カスタマービジネス」、「環境・エネルギー」、「ヘルスケア」、「不動産」、「航空」、「ロジスティクス」及び「インフラ・企業投資」の7セグメントに変更しております。

(変更した報告セグメントの内容はP.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報)」をご覧ください。)

セグメント別の経営成績は次のとおりとなりました。(セグメント利益は報告セグメント金額を記載しております。)

なお、当第1四半期連結会計期間より、セグメント利益を営業利益から親会社株主に帰属する当期純利益に変更しております。また、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えた数値で比較しております。

① カスタマービジネス

国内子会社の連結除外影響等により、セグメント利益は前年同期比5億円 (12.9%) 減少の39億円となりました。

② 環境・エネルギー

売却益と売電収入の増加により、セグメント利益は前年同期比2億円 (25.8%) 増加の11億円となりました。

③ ヘルスケア

セグメント利益は前年同期比横ばい (1.6%減少) の1億円となりました。

④ 不動産

大口売却があったこと等により、セグメント利益は前年同期比24億円 (37.1%) 増加の91億円となりました。

⑤ 航空

前年同期に計上した一時的収益の反動減や貸倒関連費用の増加等により、セグメント利益は前年同期比23億円 (42.9%) 減少の31億円となりました。

⑥ ロジスティクス

鉄道貨車リース事業でポートフォリオの組替に係る費用を計上したこと等により、セグメント利益は前年同期比3億円(97.4%)減少の0億円となりました。

⑦ インフラ・企業投資

事業投資先の収益拡大により、セグメント利益は前年同期比2億円増加の0億円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金を積み増した影響により、前期末比2,199億円増加して6兆5,058億円となりました。純資産は、繰延ヘッジ損益の減少等により、前期末比101億円減少の7,887億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

(新型コロナウイルス感染拡大の影響等について)

当第1四半期における新型コロナウイルス感染拡大の影響は以下に記載のとおりですが、これまでのところ5月に公表した参考情報で想定した程の影響は生じておりません。また、リスクマネジメントについては対応すべき事項を確実に実行しております。

① 当第1四半期までの新型コロナウイルス感染拡大の影響について

国内外の取引先から繰延要請や支払遅延等といった事象が一部で発生しておりますが、業績への影響は限定的です。

なお、当社の重要な事業である航空事業については、世界各国の移動制限で航空機運航が停止したことに伴い、4月から5月初旬のピーク時には取引先の約8割からリース料繰延要請がありました。その後、主要各国の国内線から運航が再開するなど航空機運航状況は回復しており、支払い再開の動きも出てまいりました。また、現時点でも当社の機体で顧客の付いていないオフリース機の割合は1%程度に留まっております。

当社航空機ポートフォリオは、「流動性が高いナローボディ主体」、「平均機齢が若くリース残存契約期間が長い」ことに加えて、分散(レシー・地域・リース満了日等)も図られており、機体売却・リマーケティング、減損リスク対応などでも相対的に優位性の高いポジションにあると考えております。

② リスクマネジメントについて

当社は、従来から統合リスク管理の枠組みの中で、複数のシナリオに基づくストレステストを実施し、各種リスクを定量化してリスク資本管理を行っております。

新型コロナウイルス感染拡大の影響についても「2021年3月期に関する参考情報」で記載したシナリオに基づき、貸倒関連費用の増加、アセット売却益の減少、アセット減損損失の増加、ストック収入の減少、資産獲得の鈍化など、強いストレスをかけたシナリオを適用してリスク耐久力の検証を行っております。また、検証の過程において、事前に「把握しておくべきこと」、「想定しておくべきこと」を整理し、対応すべき事項に対しては既にリスク低減に着手しております。

<2020年3月期決算短信に掲載した「2021年3月期に関する参考情報」>

■ 現時点では、新型コロナウイルス影響の終息時期を含め2020年度の事業環境を見通すことは難しく、2021年3月期の連結業績への影響を合理的に予想することは困難と考えております。

■ ただし、以下を前提とした場合、2021年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益は350~400億円程度と試算されるので参考情報としてお知らせします。なお、これは一定のシナリオを仮置きした上でリスク管理の観点から算出を試みた参考情報に留まるもので、合理的な外部環境見通しに基づいた予想値ではありません。

(i) 新型コロナウイルス感染拡大の主要国のピークアウトは夏以降。主要国の厳しい活動制限は夏場をピークに半年程度で徐々に緩和され、経済活動も2021年度にかけて徐々に回復。

(ii) こうした状況が多く企業の2020年度業績に影響を与え、当社においても航空事業やロジスティクス事業等への影響が生じる。

■ 上記のとおり、2021年3月期の連結業績を予想することが困難なため、2021年3月期の1株当たり年間配当金の予想は未定としております。当社はこれまで、自己資本充実とのバランスを図りつつ、株主還元は配当によって行うことを基本とし、21期連続増配を実現してまいりました。新型コロナウイルスの影響が当社業績におよぼす影響を見ながら、これまでの増配の実績も尊重した上で検討いたします。なお、検討の結果として配当性向が中期経営計画で示した配当性向30%台を超えることもあり得ます。

(連結業績予想について)

前述のとおり、新型コロナウイルス感染拡大の影響は、これまでのところ5月に公表した参考情報で想定した程には生じておりません。しかし、今後の見通しについては、6月にIMFが世界経済の成長率を下方修正する等、高い不確実性が引き続き存在しております。当社としても、新型コロナウイルス感染拡大の主要国のピークアウトは夏以降と見ており、感染再拡大の不透明感が続く状況から、合理的な事業環境を見通すことは未だ難しく、現時点では2021年3月期の連結業績予想及び配当予想とも引き続き未定としております。なお、現時点では、第2四半期の状況を見て連結業績予想、配当予想を開示する予定です。

(資金調達の状況について)

当第1四半期においては前期に引き続き、先々の環境変化を見据えた上で策定した資金調達計画に基づき、本年度の営業活動に必要な資金の確保、及び資金の長期化を行う目的で、国内外社債発行、金融機関からの長期調達などを前倒しで実施し、財務の安定性を確保してまいりました。

この長期化の過程において2020年6月末時点の連結ベースの現金及び預金は、前期末比2,337億円増加の6,999億円となりました。また、有利子負債における長期比率は前期末の62.9%から66.8%に向上しております。引き続き財務規律を維持しつつ、様々な環境変化に対応できる柔軟な財務戦略を遂行してまいります。

なお、複数の金融機関との間で締結しているコミットメントライン契約の2020年6月末時点における未使用総額は5,073億円です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	466,228	699,992
割賦債権	227,280	220,278
リース債権及びリース投資資産	1,583,670	1,549,636
営業貸付金	1,062,740	1,060,828
その他の営業貸付債権	73,657	57,251
賃貸料等未収入金	23,757	25,412
有価証券	819	360
商品	21,217	23,775
その他の流動資産	57,086	95,408
貸倒引当金	△5,758	△5,943
流動資産合計	3,510,701	3,727,000
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産		
貸貸資産	2,025,596	2,026,690
貸貸資産前渡金	73,308	64,865
貸貸資産合計	2,098,904	2,091,555
その他の営業資産	120,498	124,729
社用資産	5,967	6,868
有形固定資産合計	2,225,371	2,223,153
無形固定資産		
貸貸資産	8	8
その他の無形固定資産		
のれん	65,580	63,661
その他	101,404	96,645
その他の無形固定資産合計	166,984	160,307
無形固定資産合計	166,993	160,315
投資その他の資産		
投資有価証券	313,947	328,702
破産更生債権等	24,693	26,298
その他	58,091	55,539
貸倒引当金	△13,831	△15,113
投資その他の資産合計	382,901	395,426
固定資産合計	2,775,265	2,778,895
資産合計	6,285,966	6,505,896

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	74,918	80,269
短期借入金	454,137	408,597
1年内償還予定の社債	224,536	208,492
1年内返済予定の長期借入金	329,818	348,775
コマーシャル・ペーパー	762,100	689,916
債権流動化に伴う支払債務	59,109	53,561
未払法人税等	6,924	4,671
割賦未実現利益	12,740	12,217
賞与引当金	6,668	2,461
役員賞与引当金	486	556
その他の流動負債	118,749	128,998
流動負債合計	2,050,190	1,938,518
固定負債		
社債	945,016	1,124,857
長期借入金	2,079,301	2,237,107
債権流動化に伴う長期支払債務	76,671	70,080
役員退職慰労引当金	119	126
退職給付に係る負債	3,344	3,288
その他の固定負債	332,501	343,200
固定負債合計	3,436,955	3,778,661
負債合計	5,487,146	5,717,180
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,196	33,196
資本剰余金	167,164	167,166
利益剰余金	538,977	541,661
自己株式	△1,665	△1,662
株主資本合計	737,671	740,361
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,752	18,632
繰延ヘッジ損益	△5,597	△17,176
為替換算調整勘定	36,219	30,992
退職給付に係る調整累計額	△1,333	△1,305
その他の包括利益累計額合計	40,041	31,141
新株予約権	1,507	1,502
非支配株主持分	19,599	15,710
純資産合計	798,820	788,715
負債純資産合計	6,285,966	6,505,896

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	243,641	221,355
売上原価	197,125	175,328
売上総利益	46,516	46,027
販売費及び一般管理費	21,246	24,952
営業利益	25,270	21,075
営業外収益		
受取利息	273	91
受取配当金	655	742
持分法による投資利益	575	923
その他	877	901
営業外収益合計	2,382	2,659
営業外費用		
支払利息	1,016	744
デリバティブ評価損	4	973
その他	1,004	600
営業外費用合計	2,024	2,318
経常利益	25,627	21,415
特別利益		
段階取得に係る差益	48	-
特別利益合計	48	-
税金等調整前四半期純利益	25,676	21,415
法人税等	8,150	7,339
四半期純利益	17,525	14,076
非支配株主に帰属する四半期純利益	370	368
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,154	13,707

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	17,525	14,076
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,723	7,806
繰延ヘッジ損益	△3,628	△11,728
為替換算調整勘定	△3,087	△5,110
退職給付に係る調整額	74	85
持分法適用会社に対する持分相当額	△80	△254
その他の包括利益合計	△10,446	△9,201
四半期包括利益	7,079	4,875
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,717	4,807
非支配株主に係る四半期包括利益	361	67

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報)

当社グループは、前中期経営計画から開始した事業部門制を踏まえ、カスタマービジネス及び事業部門ごとに、経営計画を策定し、PDCAサイクルを回す取り組みを開始しており、この単位での財務情報を活用して戦略の進化に繋げる仕組みを整えましたので、報告セグメント等の変更を行いました。

これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを「カスタマーファイナンス事業」及び「アセットファイナンス事業」の2セグメントから「カスタマービジネス」、「環境・エネルギー」、「ヘルスケア」、「不動産」、「航空」、「ロジスティクス」及び「インフラ・企業投資」の7セグメントに変更し、セグメント利益を営業利益から親会社株主に帰属する当期純利益に変更しております。

変更した報告セグメントの内容は以下のとおりです。

	報告セグメント	主なサービス・事業内容
1	カスタマービジネス	設備機器リース・ファイナンス 中古機器の販売・買取
2	環境・エネルギー	再生可能エネルギー発電事業、環境関連機器リース・ファイナンス ESCO (Energy Service Company) 事業
3	ヘルスケア	医療機器リース・ファイナンス、中古医療機器の販売・買取 医療機器導入・経営支援コンサルティング
4	不動産	不動産リース・ファイナンス 不動産流動化、不動産再生投資
5	航空	航空機リース 航空機エンジンリース
6	ロジスティクス	海上コンテナリース、鉄道貨車リース 船舶ファイナンス、オートリース
7	インフラ・企業投資	社会インフラへの投資・ファイナンス PFI事業、企業投資事業

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分により作成したものを記載しております。

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	カスタマー ビジネス	環境・ エネルギー	ヘルスケア	不動産	航空	ロジスティ クス	インフラ・ 企業投資	計		
セグメント利益 又は損失 (△)	4,555	902	150	6,666	5,560	401	△216	18,020	△865	17,154

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、主に、販売費及び一般管理費のうち報告セグメントに帰属しない全社費用の調整額であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	カスタマー ビジネス	環境・ エネルギー	ヘルスケア	不動産	航空	ロジスティ クス	インフラ・ 企業投資	計		
セグメント利益 又は損失 (△)	3,966	1,135	148	9,141	3,172	10	29	17,603	△3,896	13,707

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、主に、販売費及び一般管理費のうち報告セグメントに帰属しない全社費用の調整額であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

当第1四半期連結会計期間末において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した追加情報における新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や終息時期等を含む仮定に重要な変更はありません。